

～ Series Gerontology ～
「高齢者マーケットの切り口 -QOL- (第4回)」

オルフェウスコンサルティング株式会社
代表取締役社長 沢部 浩久
(前(株)リサーチ・アンド・デバロップメント 代表取締役副社長)

1. 第2回高齢者調査の調査概要

2009年に実施した第1回高齢者調査(トライアル調査)に続いて、新たに2010年6月～7月に実施した第2回高齢者調査の結果の一部をご紹介します。調査手法など、基本的な調査設計は前回調査と同様です。(回収サンプル数は異なっています。)
今回は食生活の分野で、主に食事の実態に関する内容です。

＜前期高齢者分＞

※「CORE2010」本調査の回収サンプルの60～74才の層に対して郵送調査を実施
(CORE調査の詳細な設計は、R&D社HPをご参照下さい。)

調査地域：首都40km圏		計	男性	女性
調査対象：60～74才の男女個人	合計	382	185	197
調査方法：郵送調査法	60～64才	135	70	65
調査期間：2010年6月～7月 (実査)	65～69才	144	66	78
回収サンプル数：382s (発送400s)	70～74才	103	49	54

＜後期高齢者分＞

※「CORE2010」調査での調査地点(200地点)のうち50地点を抽出、各地点で6サンプル
(男女各3サンプル)をエリアサンプリングで抽出。

調査地域：首都40km圏		計	男性	女性
調査対象：75才以上男女個人	合計	300	150	150
調査方法：訪問面接調査	75～79才	152	78	74
調査期間：2010年6月～7月 (実査)	80～84才	97	52	45
回収サンプル数：300s	85才～	51	20	31

＜参考＞ (回収サンプル構成：%)

	計	男性	女性
75～79才	50.7	52.0	49.3
80～84才	32.3	34.7	30.0
85才～	17.0	13.3	20.7

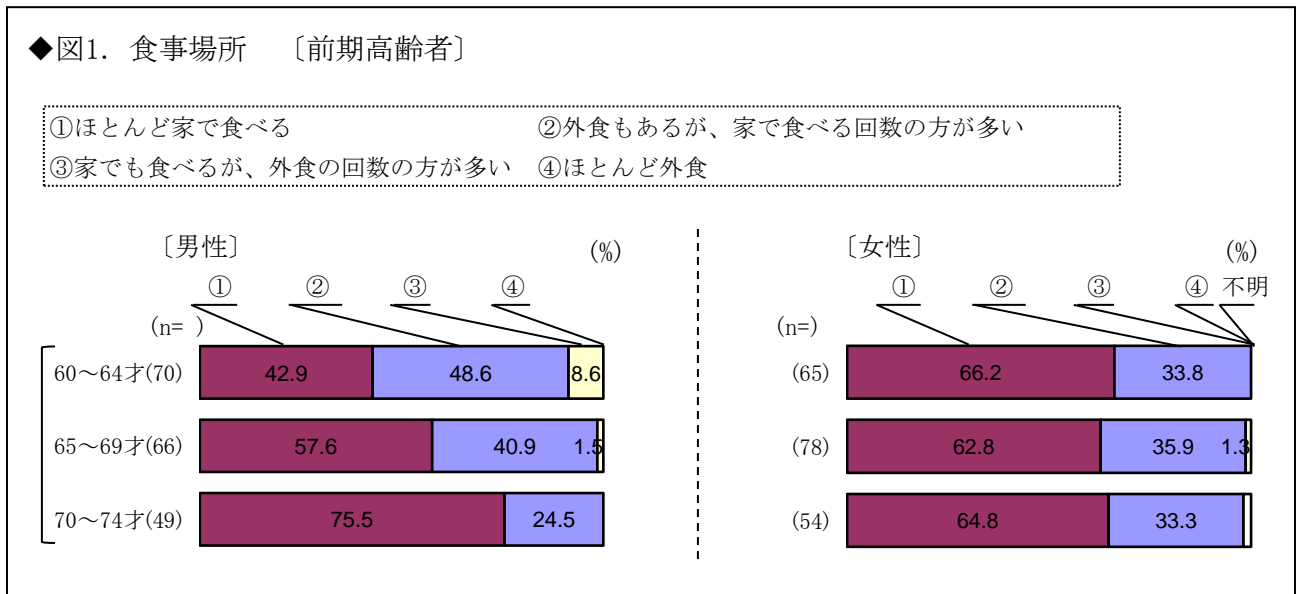
(母集団構成：%)

	計	男性	女性
75～79才	46.5	53.3	42.2
80～84才	29.0	28.0	29.6
85才～	24.5	18.7	28.2

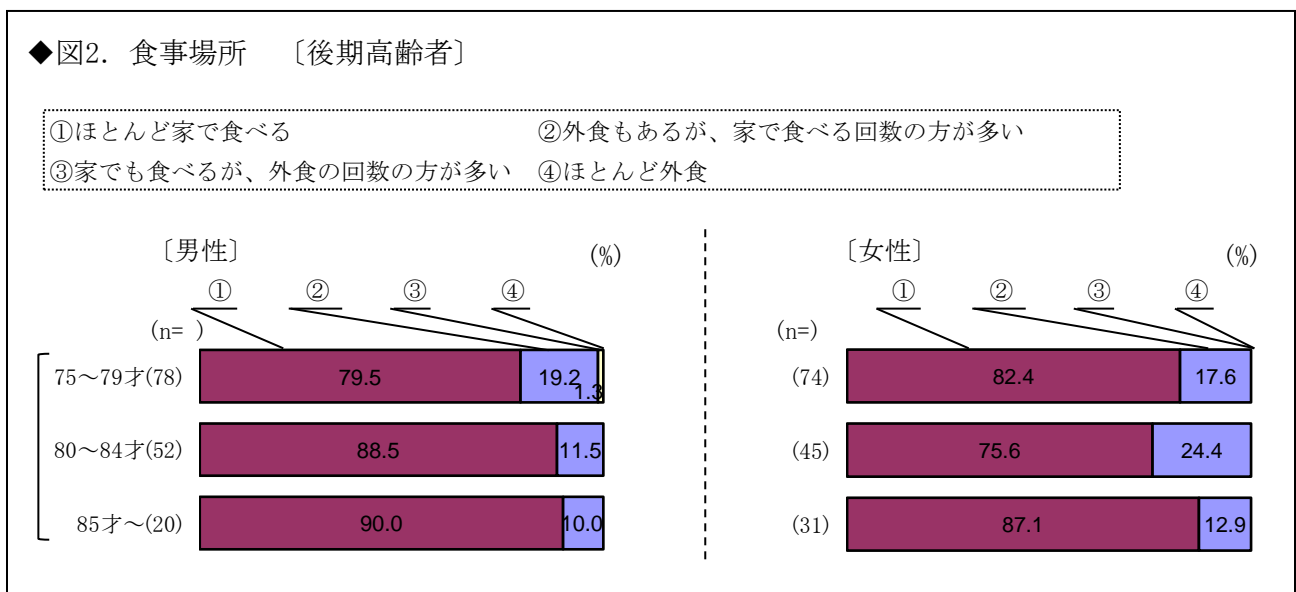
*平成17年国政調査結果による
首都40km圏内人口構成比

2. 食事の状況

ふだんの一週間で、一日三食の食事をどこでとっているかを質問したところ、前期高齢者の男性は、60代までは家でも食べるが外食もする人が40%以上ですが、70才代で20%台に低下します。これは、就労等、外出する機会に比例しているものと思われます。これに比べて女性は、どの年齢層も30%強の一定割合で外食もしています。（図1参照）



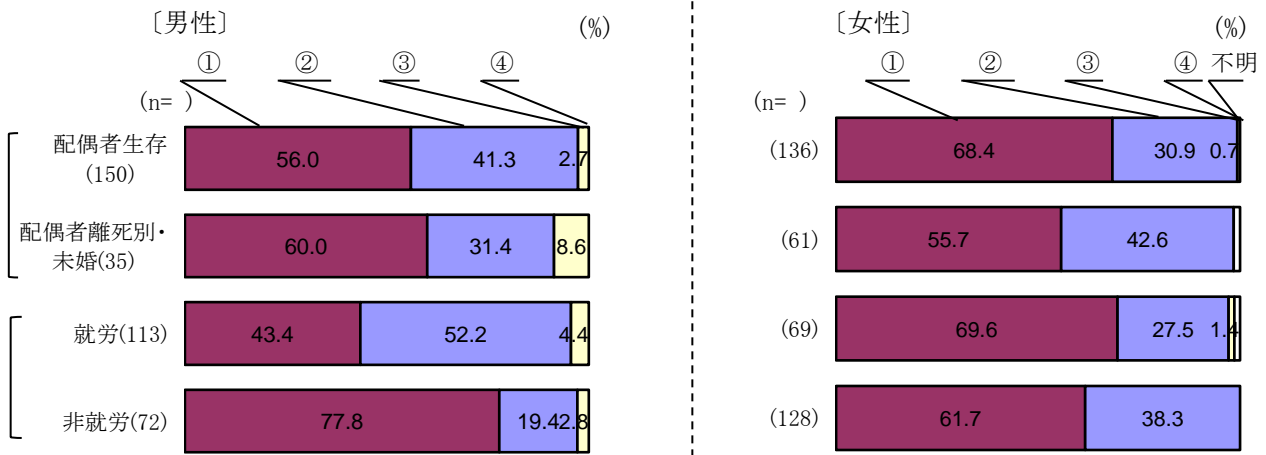
同様に後期高齢者についてみると、男性では75～79才で他層より若干外食機会があるものの、殆ど家で食べるようです。女性も全体としては殆ど家で食べていますが、男性に比べると外食をする機会が多いようです。（図2参照）



更に、観点を変えて見たものが図3です。前期高齢者の男性では配偶者のいる/いないに拘わらず外食機会は同じですが、女性では配偶者がいない層で外食機会が多くなるようです。また、男性では就労層での外食機会が多いのに対し、女性ではむしろ非就労層で多くなっています。

◆図3. 配偶者及び就労状況でみた食事場所 [前期高齢者]

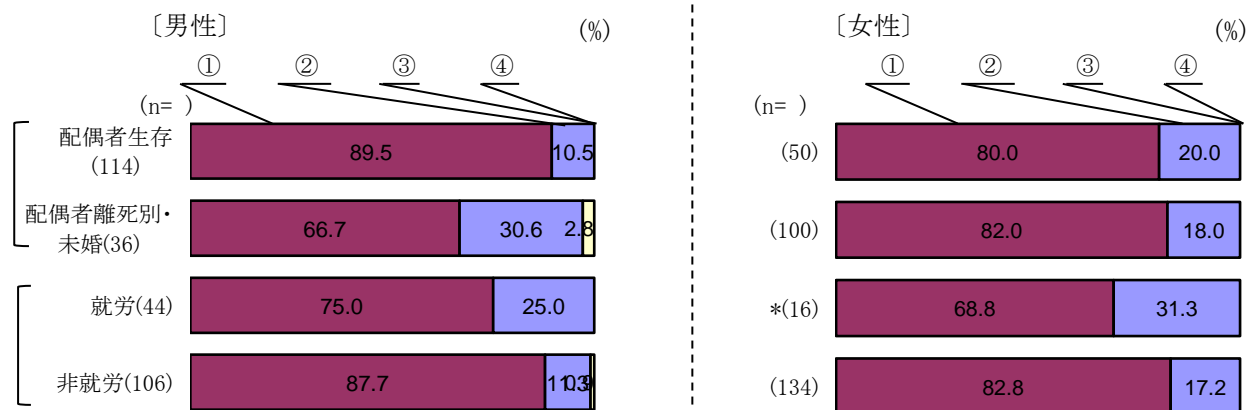
①ほとんど家で食べる ②外食もあるが、家で食べる回数の方が多い
③家でも食べるが、外食の回数の方が多い ④ほとんど外食



同様に後期高齢者について見たものが図4です。男性が配偶者のいない層で外食機会が多くなるのに対して、女性は変化がありません。男性は元々料理を自らする人が少ない、惣菜などを買ってくる手間が面倒、といったことが影響していると考えられます。

◆図4. 配偶者及び就労状況でみた食事場所 [後期高齢者]

①ほとんど家で食べる ②外食もあるが、家で食べる回数の方が多い
③家でも食べるが、外食の回数の方が多い ④ほとんど外食



* サンプル数が少ない為、参考データ

さて、外食は一体誰とするのでしょうか。先ず前期高齢者(月1回以上外食をする人ベース)で見ると、配偶者のいる男性は当然配偶者と、加えて家族や職場の仲間と一緒にしますが、女性は配偶者に加えてサークルやクラブの仲間、友人・知人が多いようです。配偶者のいない層で見ると、男性は殆ど一人で、という割合が突出しますが、女性の場合は友人・知人、家族、サークルやクラブの仲間と一緒に、一人では行かないのが特徴です。

男性の就労層では職場の仲間との外食機会にやや偏重している傾向がありますが、女性は就労層でも職場の仲間以外の人とも外食機会を持っています。

◆表1. 一緒に食事をする人 (月1回以上外食する人ベース) [前期高齢者]

	(n=)	配偶者以外の近所のサークル/クラブ職場のその他 (%)							不明
		配偶者	家族	知合い	の仲間	仲間	・知人	一人で	
男性	配偶者生存 (120)	67.5	27.5	10.8	19.2	23.3	21.7	18.3	0.8
女性	配偶者離死別 (28)	*	10.7	10.7	10.7	17.9	32.1	50.0	-
	・未婚								
女性	配偶者生存 (90)	64.4	34.4	17.8	41.1	8.9	37.8	2.2	1.1
女性	配偶者離死別 (40)	*	35.0	15.0	30.0	17.5	57.5	5.0	2.5
	・未婚								
男性	就労 (91)	51.6	24.2	7.7	13.2	36.3	19.8	27.5	1.1
女性	非就労 (57)	59.6	24.6	15.8	24.6	*	29.8	19.3	-
女性	就労 (43)	44.2	25.6	18.6	34.9	34.9	39.5	2.3	-
女性	非就労 (87)	44.8	39.1	16.1	39.1	*	46.0	3.4	2.3

同様に後期高齢者について見ると、男性の配偶者のいない層で(配偶者以外の)家族との外食機会が多いのが目立っており、これは前期高齢者とは傾向が異なります。

女性では配偶者のいる/いないに拘わらず色々な人との外食機会があり、前期高齢者に比べると近所の知り合いとの機会も多くなっています。

◆表2. 一緒に食事をする人 (月1回以上外食する人ベース) [後期高齢者]

	(n=)	配偶者以外の近所のサークル/クラブ職場のその他 (%)							不明
		配偶者	家族	知合い	の仲間	仲間	・知人	一人で	
男性	配偶者生存 (55)	69.1	25.5	18.2	25.5	1.8	10.9	7.3	-
女性	配偶者離死別 (20)	*	45.0	5.0	10.0	-	30.0	35.0	-
	・未婚								
女性	配偶者生存 (29)	62.1	27.6	37.9	27.6	6.9	24.1	-	-
女性	配偶者離死別 (58)	*	37.9	29.3	29.3	-	34.5	3.4	-
	・未婚								
男性	就労 (26)	46.2	26.9	23.1	19.2	3.8	11.5	19.2	-
女性	非就労 (49)	53.1	32.7	10.2	22.4	*	18.4	12.2	-
女性	就労 * (8)	12.5	-	62.5	25.0	25.0	50.0	-	-
女性	非就労 (79)	21.5	38.0	29.1	29.1	*	29.1	2.5	-

*サンプル数が少ない為、参考データ

次に、料理をする或いは以前はしていた人に、料理に対する色々な考え・意識を尋ねた結果が表3です。(前期高齢者と後期高齢者では調査方法が異なるので、回答データの数値を直接比較するのではなく、男女それぞれについて前期高齢者及び後期高齢者の傾向の差異に着目して頂きたいと思います。)

◆表3. 料理についての意識

*「現在料理をする」「以前料理をしていた」と回答した人ベース

	〔前期高齢者〕		〔後期高齢者〕		
	(%)		(%)		
	男性	女性	男性	女性	
	(n=)	(110)	(196)	(59)	(147)
出来合いの総菜よりも、自分で料理したものの方がおいしい	55.5	82.1	47.5	75.5	
おいしいものを食べたいから、料理をすることは苦にならない	32.7	47.4	18.6	35.4	
自分で料理した方が、季節や旬のものを食べられる	40.9	73.5	40.7	68.7	
自分で料理した方が、自分の好みに合わせられる	76.4	86.7	67.8	78.2	
自分で料理した方が、自分の健康状態や体質に合わせられる	31.8	71.9	49.2	66.0	
出来合いの総菜よりも、自分で料理したものの方が安全で健康によい	39.1	73.5	40.7	59.9	
家族が喜んでくれるので、料理はやりがいがある	31.8	49.5	16.9	30.6	
自分で料理を作った方が、家族と会話ができ楽しい	20.9	31.1	11.9	23.8	
自分で作った料理で友人知人と食事するのは楽しい	10.9	28.1	1.7	14.3	
いろいろな料理を作るとは創造的で楽しい	27.3	36.2	8.5	21.8	
料理は、頭や手を使うので、老化防止に効果がある	33.6	58.7	27.1	44.9	
出来合いの総菜より、家で作る方が経済的である	38.2	66.8	30.5	49.0	
食材や弁当の宅配の方が自分で作るものより美味しい	-	3.6	1.7	-	
食材や弁当の宅配の方が自分で作るよりメニューの種類が豊富	4.5	4.6	8.5	2.0	
食材や弁当の宅配の方が自分で作るより栄養のバランスが考えられている	6.4	7.1	5.1	6.8	
食材や弁当の宅配の方が自分で作るより経済的	3.6	5.1	3.4	2.7	

○ が前期/後期高齢者で傾向が異なる項目

まず男性では、前期高齢者が自分で料理をすることの利点として、家族がよろこんでくれるのでやりがいがある、料理が創造的で楽しい、としているのに対し、後期高齢者では自分の好みや体質に合わせられる、安全で健康によい、としているのが特徴的です。これに対し女性では、前期高齢者はおいしいものが食べたいので苦にならない、安全で健康によい、家族が喜んでくれるのでやりがいがある、としています。後期高齢者では自分の好みや体質に合わせられることの比重が高まる傾向があります。

4. 高齢者の食(生活)マーケット

ここまで今回実施した調査結果のうちの食分野のほんの一部のデータをご紹介しましたが、高齢者の食生活に関しては、当人の置かれている環境、例えば配偶者の生活状況や同居家族、就労の有無、年齢(当人の加齢に伴う身体的変化)などが大きく影響する生活領域であることが鮮明になりました。

特に男性の多くは女性(配偶者)に普段の食事を頼っていることから、配偶者に先立たれた場合などは食事の内容が一変するケースも多々あることでしょう。

また、手間や嗜好の変化、食事量の変化などから、高齢になるほど結果的に選択の幅が狭まってしまう傾向が出て来ることが推察され、栄養面もさることながら食事の楽しみも低下してしまうことが懸念されます。

当該マーケットに向けた商品・サービス開発に際しては、具体的に何をどのようにどのくらい食べているのか、またそれは何故にそうしているのか、といったことをきめ細かく知る必要があると思いますが、行動実態だけでなく「本当はこうしたい」という高齢者の食ニーズを掘り下げることが勘要であると考えられます。特に後期高齢者では身体的な衰えや配偶者を失ったりすることにより、料理や食べることへの楽しみが制限されてきてしまいます。

これらの阻害要因を全て排除することはおそらく困難ですが、例えば、もっと楽に買い物が出来る、食材の取り寄せ・購入手続きが簡単に出来る、色々な素材が少量で購入出来る、小さな労力でも料理が出来る、食事や料理の情報やアドバイスが簡単に手に入る、といった利便性が高まる方向での選択肢が増えれば、高齢者にとっての食生活は随分と変わるかもしれません。

高齢者にとっての食生活が、これまで以上に食べることの楽しみも増して、加えて周りの人達とのコミュニケーションツールとしての役割も大きくなるのであれば、食生活が毎日の生活に必須の領域であるが故に、高齢者の生活の質を高めることに大きく貢献する可能性を秘めていると言えるでしょう。

(2010年 7月21日)

*無断転載を固く禁じます。転載・引用の場合は当社までご連絡下さい。
また、転載・引用の際には必ず当社クレジットを明記頂けますようお願い致します。